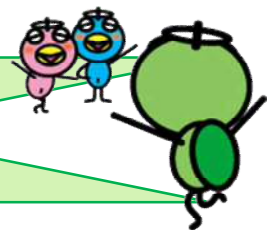




「認知症 なかまで備え 支え合う」プロジェクト



新・おひとりさまのつどい

～ 南校区まちづくり協議会 ～



テーマ：認知症への備えについて

ひとり暮らしの高齢者が地域から孤立しないようにと始めた“おひとりさまのつどい”。
コロナ禍で深刻化した地域課題を解決するために南校区まちづくり協議会が再び立ち上がりました！

with コロナで
安全に集える
方法はないかな？

アンケートの結果では
「認知症について学び
たい」という
意見が多かった！



楽しく前向きに
「認知症」を
理解したい！



認知症への備えをテーマに寸劇をしよう！

『物忘れと認知症の違い』『地域で見守る時のコツ』

前編は「夕飯の内容を忘れた」「夕飯を食べたことを忘れた」など、物忘れと認知症の違いを表現し参加者の皆さんに答えてもらうクイズ形式で出題♪
後半は民生委員さんが進行役となり地域の中で、お互いに見守り合うためのコツを紹介しました。「ご近所さんの異変に気付くことができるのは、向こう三軒の付き合いがある地域の皆さんだからできること」と伝えられました。

出演者は南校区まちづくり協議会の役員・運営委員のみなさん！

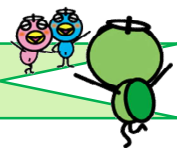


コロナ禍により中断された集いの場でしたが、地域の方で無事に復活することができました。
社会参加をし、地域の中で互助の関係を構築することが生活支援＝認知症への備えになります。





★「認知症 なかまで備え 支え合う」プロジェクト★



動画作成

～認知症の人への対応方法～

「認知症の種類や症状を知ること大切だけど、認知症の人への接し方も理解したい…。」これは、地域の皆さんの思いです。

“認知症”を正しく理解するために「認知症の人への対応方法」や、「オレンジセーフティネット」についての説明動画を作成しました。



作成した動画を認知症サポーター養成講座で初上映



タイトル「できることを奪わないで」

忘れてしまうことに対しての失敗体験と成功体験を比較した事例を紹介。自分が認知症になったらどのような接し方をしてほしいかを考えることが認知症への備えになります。

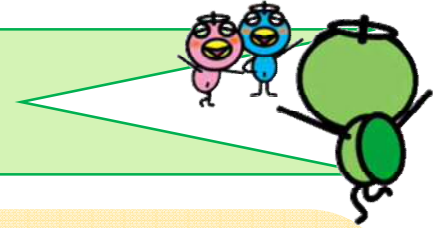
オレンジセーフティネット事業について

民間企業と協働した新たな取り組み「オレンジセーフティネット」を活用した事例を紹介。アプリを使用することで認知症になっても住み慣れた場所で、自分らしく暮らすための備えになります。

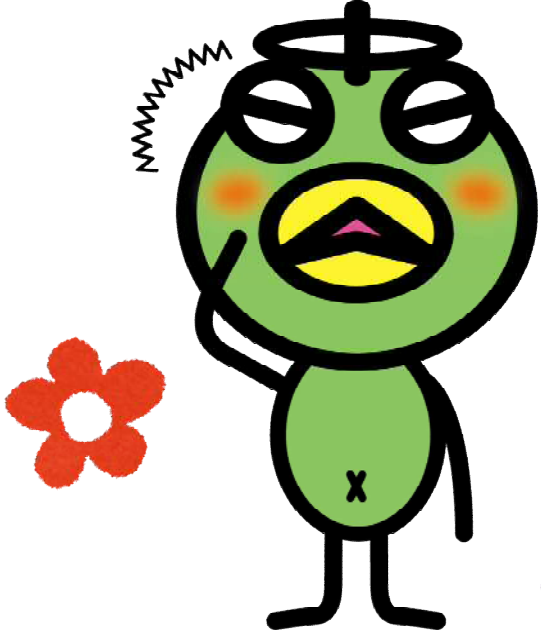




「認知症 なかまで備え 支え合う」プロジェクト



全力発信中!



第4回 認知症とアルツハイマーリハビリテーションに関する国際会議

令和5年2月10日（金）日本時間の深夜、イギリスで開催された「第4回 認知症とアルツハイマーリハビリテーションに関する国際会議」において“認知症 なかまで備え 支え合うプロジェクト”について発表しました。この会議は、EU、アメリカ、オランダ、マレーシアなど世界各国の研究者が研究発表を行うもので、世界一の高齢社会である日本を代表して中間市の取り組みを発表する機会をいただきました！！



プレゼン資料やスピーチ(20分間)は全て英語♪
ALTを含む他課の職員や学生さんなど、多くの人の協力で発表が実現しました♥

日本文化厚生農業協同組合連合会 「文化連情報」掲載

中間市に視察に来られた東京家政大学の松岡洋子准教授が連載中の文化連情報（1月号No.538、2月号No.539）において中間市の取り組みが掲載されました。「認知症になっても自分らしく活躍できる“お互いさま”のまちづくりを目指して」という書き出しで認知症プロジェクトが取り上げられ、中間市の特徴である“住民主体”や“地域密着”が重要であることに共感されています。



読賣新聞 令和5年2月17日(金)朝刊掲載

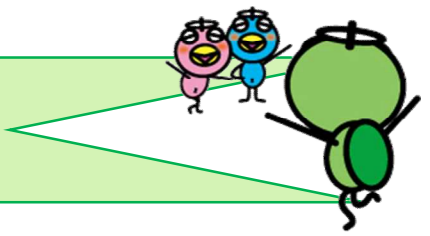
ハピネスなかまで開催した「巡回型認知症カフェスタイル交流会」やプロジェクトでの取り組みについてカラーで大きく掲載され、記者さんからは「今後も中間市の前向きな取り組み情報を提供してください。」と依頼がありました。明るいニュースが発信できるよう、地域の皆さんと一緒に頑張ります！



「文化連情報」や掲載記事については、中間市地域包括支援センターにて、ご確認いただけます♪



「認知症 なかまで備え 支え合う」プロジェクト

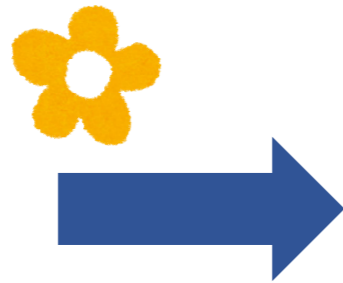
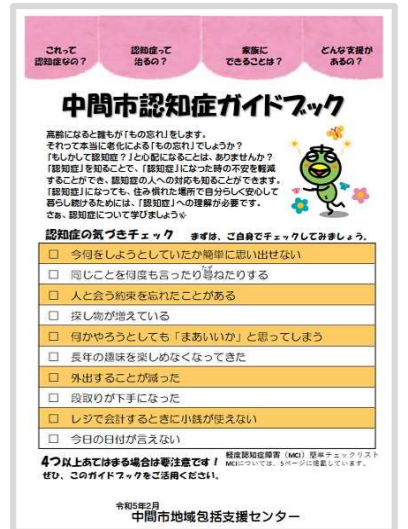


認知症ガイドブックを活用した啓発活動



～ 中間市民生委員児童委員協議会 ～

「地域の中で心配な人が増えている！」コロナ禍で深刻化する地域課題にいち早く気付いたのは民生委員さんでした。その気付きがきっかけとなり誕生したのが「認知症 なかまで備え 支え合うプロジェクト」です。令和5年度最初の活動は、民生委員さんの手で認知症ガイドブックを配布し地域のみなさんに認知症について正しく理解してもらうための啓発活動です！



まずは委員さんが出席する協議会でガイドブックについて説明しました。

そして民生委員さんの手から直接、地域の方へガイドブックを渡しました。

認知症について正しく理解してもらうことができ、なかまのなかま誕生です♪

★中間市民生委員児童委員協議会 中原会長へインタビュー★

- ・「認知症 なかまで備え 支え合うプロジェクト」が始まり、変化したことを教えてください。民生委員もコロナで色々な人と接する機会が減った事を痛感していました。地域の方々にももう少し啓蒙活動の仕方を考えないと思っていた所、このプロジェクトが始まり、介護保険課の方々が民生委員のアピールをして下さった事、感謝です。まず、地域の方々が、認知症に関心を持ってきた事ですし、私も言動などがおかしいと心配な人が何人かいることに気がついた事です。
- ・行政と協働してみて感じたことを、お聞かせください。距離が近くなり、何でも相談しやすくなった。色々な情報が得られやすくなった。
- ・これからの展望について、お聞かせください。

「なかまのなかまカフェ」について、幅広い人を対象にしている事は今の時代、大変良い事だと思うし私達も、その方々と接してゆきたいと思っています。



中原会長